

## 国際ロシア語・ロシア文学教師連盟 第12回大会に参加して

堤 正 典

国際ロシア語・ロシア文学教師連盟はロシア語の略語から「マプリアル (МАПРЯЛ)」と呼ばれており、1968年にモスクワで第1回大会が開かれて以来、現在は4年に一度開催されている。これまではロシアや東中欧のみで開かれ、今回は中国・上海での開催で、初めてのアジアでの大会となった。ヨーロッパからは遠い地にもかかわらず、48か国から1200名が集まったということである(スポンサーとなったアエロフロート・ロシア航空が無料のチャーター便を出したこともその手助けとなったらしい)。しかし、隣国の中国での開催にもかかわらず、日本からの参加はごく少人数にとどまっており、しかも震災の影響もあって、エントリーしながら欠席せざるを得なかった方々もあった。日本からの参加者で報告を行ったのは、私と小林潔特任准教授を含めて、6名5組のみであり(代理での報告がさらに1件)、その他、報告を行わない参加者もごくごく少人数だったようだ。このことはまったく残念であるが、少ないからなのか、我々は「日本からの同僚」と様々な人に声をかけられ、大会期間中、非常に楽しく過ごすことができた。

この大会は、2011年5月11日から14日まで、上海郊外の上海外国語大学松江キャンパスで行われた。このキャンパスは建物がそれぞれの学部学科で学ばれる言語の地域の趣をもったものとなっていて、例えば、ロシア語学部の建物はロシア正教会風の玉ねぎ型のドームがついており(もちろん先頭の十字架はないのだが)、日本文化経済学院は日本庭園で囲まれた瓦屋根風の建物であった。広大な敷地のほぼ中央には巨大な図書館が聳えており、その前は噴水なども配置され、テーマパークかと思われるような美しいキャンパスであった。

5月10日午後上海虹橋空港に降り立つと、マプリアルのボードを持ったボランティア学生が待っていてくれ、マイクロバスで大学近くのホテルに連れて行ってくれた。そろいの水色のTシャツを着た学生ボランティアは、この大会を通して大活躍であった。参加者はみな大学周辺のホテルに分かれて宿泊することになっていた。フロントで宿泊のチェックインと大会登録の確認をすまし、部屋に落ち着くと、私の部屋からは上海外国語大学のキャンパスが見えた。その晩から、同じホテルに泊まった参加者は、三食同じレストランで食事をとることになり、多くの人々と会話を交えることができた。

大会は、11日の開会式と14日の閉会式を含む全体会議と、その間の2日間の分科会や円卓会議に分かれ、夜にはコンサートなどの文化プログラムも用意された。我々が参加した分科会「外国語としてのロシア語教育の歴史と教育方法の革新」は、2日間の午前午後をすべて使って報告と活発な討論が行われた。

14日の閉会式と全体での懇親会のあと、上海へのエクスカージョンにも参加してみた。大型バスを連ねて上海の街中まで行き、豫園等に寄ったのちに、船で夜景を楽しむことができた。参加者はロシア人が多く、もちろんその他の参加者や中国人ガイドもロシア語で話すわけで、中国の上海をロシア語の中で観光するという、今考えるとちょっと不思議な小旅行であった。

上海は10年以上前に来たのが最後であったが、この出張を通して、中国の大きな活気を感じた。震災直後の日本から来た成果もあるかもしれないが、

2011年は、マプリアル第12回大会の他に、11

月に札幌で開催された北海道大学スラブ研究センターと国際スラヴィスト会議スラヴ語文法構造研究部会との共同主催による国際シンポジウム「スラヴ諸語における文文化と語彙化」にも参加できた。こちらは、マブリヤルに比べると小ぢんまりとしたものであるが、私にとっては専門により近

い分野の催しで、ロシアをはじめ各国のスラヴ語学者と交わることができ、大変楽しく、かつ、大変勉強になった集まりであった。マブリヤルにしても、国際スラヴィスト会議にしても、国際学会は大いに刺激を受ける催しである。

\*\*\*\*\*